のでしょうが，それは一面あの母親達と心情的に癒着したと思われる作品を生むことになったようです。次男が「日本の作家のものはチマチマしていておもしろくない」と批判しているのは，こういう点ではないでしょうか。読書感想文にしても，評価をうけるものがある種のタイプに固定する傾向があります。子どもをとりまく問題は一筋縄ではいかないようです。　（3回生）

ちりからおんがくへ

森　田　恵　子

リサイタルのこと

今年の九月に，グレックス・ステラリス（星のグループの意）演奏会と称して，第一生命ホールでピアノのジョイント・リサイタルをお茶大音楽科卒業生六名で開き，私もその末席を汚しました。皆努力の甲斐あって（私などはもう少しでノイローゼになるところでした）無事に終わり，「ひとりひとりがみな異った音を出し，個性の表われた」演奏であったとの評をいただきました。

私はドビュッシーの「ピアノのために」という十五分位の小曲を弾き，目下ドビュッシーに夢中になっている所です。

ドビュッシーに凝るのこと

たしか去年の今頃から――これ迄も音楽上のいろいろな人に一時的に凝っては卒業して行ったのですが（例えば小沢征爾，バーンシュタイン，フォーレ，ラヴェル等）――ドビュッシーの音楽をこの上なく美しいと感じ，此度のは今までになく夢中になって，ドビュッシーについての凡ゆること，といっても出版されている全部の楽譜と古今東西の書物を集めることを目ざして私なりに専心し，まだその途中ですが，すでに財力をはるかにオーバーしたため，今は中休みしています。レコードにはまだ手をつけていませんが，さてこれだけあればもうヒモとくのに一生かかる位で，隠居後ゆっくり読むのが今から楽しみです。

ピアノが好きになるまで

最近のこと，「へえー，ピアノが好きな人がいるんですか。珍らしい人がいるものですね。」と感心されたのか，ばかにされたのか分らないようなことを云われて変な気持になりました。ピアノは幼時から習わされ，ずっと嫌いでしたが，戦後たけのこ生活でピアノが無くなってからは大分淋しい思いをし，地理なんて場ちがいなところに入ってしまうとなおさらピアノが恋しくなり，卒業してやっと月ブでピアノを手に入れると，先生について習いました。その先生が音楽のすばらしさを感じさせてくれました。私の一生の恩人といっても決して大げさではありません。

私はどうしてよいか分らない位音楽が好きになり，もっと良く知りたいために音楽科に学士入学しました。そこでの幸せな日々を過すうちに，不思議なことに体も丈夫になり，学校を休むこともなくなりましたし，どんな授業でも，一時間のうちには何かしら学べるものがあることが分りました。

かくして，音楽にあけくれていますが，ピアノが本当に好きなんだと実感したのはこの九月以来のことでした。ピアノが弾けなくて苦しんだ分だけ，或はそれ以上に，ピアノ音楽のよさが抗しがたい力となってはね返ってくるのです。

地理をやったということ

それでは地理をやった（いや通過した？）ことはどんな意味があったかと申しますと，私にとってそれは大きな影響力をもっています。大学を二度出るということは，あながち無駄でもないし，劣等感をもつべき性質のものでもないということが分りました。あたりを見まわすとそういう方が多いのを知って意を強くしました。地理と音楽とは全く関係のない分野ですが，人間が経験したことで全く無駄なことというのはあり得ないと思います。学生時代にはあんなに分らなかった地理的なものの見方を今折りにふれてしているのです。物事の判断に規準があることは必要ですが，いつも一つの観点からのみ見ることは偏見となってあらわれることもあります。

そう思って，誘われれば時々巡検や調査の旅などにもお伴をさせて頂き，仕事でなく地理学にふれるのはとてもいい気持だなと思っております。（８回生）

オペレーター八カ月目

日比野　洋　子

今この原稿を書いているのは１２月１日で何を意味するかといえば，この原稿の〆切の翌日であり，（これから書いて大学に届けに行くのです）社会人になってちょうど八カ月目にあたる日なのです。

国際電話局のオペになってほぼ二カ月，仕事の内容も不十分ながら覚え，すでに後輩を迎えるにいたっています。女性ばかりの城ではさぞかし気苦労も多かろうと心配してくれる学友の声を後に，さもありなんと覚悟を決めて入社したのですが，居心地満点，かつ何年いても追い出される心配がなさそうなので当分腰を落ち着けそうです。

周囲はおない年ぐらいの女性がほとんどで，毎日ギャーギャーと騒いでいるので，とても職場の雰囲気とは言えず，むしろ学生時代の延長のような感じです。これらひらのオペ達の上に，四年目ぐら